

社員旅行も地域貢献

宮坂建設工業グループの登寿ホールディングス（帯広市、宮坂寿文社長）は地域活性化の一環として、グループ社員319人がとち帯広空港発着の韓国線を利用する社員旅行を企画した。28日に第1班の61人が仁川（インチョン）線を使って韓国ソウルに渡航予定で、同社は「初の国際定期便の搭乗率を上げることで地域活性化につなげられたら」と話している。

エアロKでソウルへ

韓国の格安航空会社（LCC）エアロK航空が帯広発着の国際定期便を就航しており、今回は仁川線を利用。全グループ社員を対象に聞き取りを行い、希望した319人が渡航。航空券、宿泊代（食事付き）、現地でのツアー代やパスポート取得費用など、旅行にかかる経費は会社が負担する。日程は3泊4日で、2日目にソウル周辺の観光ツアー、3日が自由行動。28日、3月7、14、21、28日の5班に分けて出発する。

同社は「創業100周年時はコロナ禍で大きな社内行事ができなかったこともあり、地域活性化と合わせ、社員のモチベーション、コミュニケーション向上を図れたら」と話している。（宮戸雅美）